

発行●新河岸川流域川づくり連絡会 新所沢事務所  
住所●埼玉県所沢市弥生町2996-6 山口ビル1F TEL/FAX 04-2994-3212  
発行日●2004年(平成16年)10月5日

VOL.28



切り絵 毛利将範

暑さ寒さも彼岸までとはよく言ったもので、今年のあの暑かった夏でさえも今となっては何処へやら.. 9月も末頃になると、やっぱり長袖の服が着たくなるくらい涼しい日が続くようになりました。

さて、今号では、そんな暑くて活気にあふれていた今年の夏の締めくくりには、新河岸川流域で行われたリレーフェスティバルを、前号に続き第2弾として報告します。各支川の8月の川まつりと8月末に行われた新河岸川流域フォーラムの特集です。

この記事を読んで暑く活気にあふれた夏を思い出して下さいね！

### 目次

- P2-3 特集：今年も快調  
リレーフェスティバル（その2）！  
「8月の川まつり×5つをレポート」
- P4-6 特集：新河岸川流域フォーラム  
の実施状況報告
- P7 柳瀬川流域フォーラム2004  
川の知識Q&A
- P8 流域イベント・インフォメーション  
新所沢事務所通信



# 新河岸川流域フォーラム

## 「砂川旧石器人ストリート」をウォーキングしよう！

### の実施状況報告です！

去る8月28日(土)、所沢市小手指公民館分館にて、新河岸川流域フォーラム「砂川旧石器人ストリート」をウォーキングしよう！を開催しました。

第I部では、新河岸川流域の中央やや北側に位置する「砂川堀」を対象にしたウォーキングと「砂川流域の歴史と人びとの暮らし」についての基調講演を行い、第II部では、新河岸川流域の小学生・中学生・大学生による「川、水、環境」に関する総合的学習等の発表を行いました。当日の様子を写真や図面等で順を追って報告します。



### 基調講演

財団法人トトロのふるさと財団の理事である 勅使河原 彰 先生に「砂川流域の歴史と人びとの暮らし」をテーマにお話いただきました。水のあり方による人々の生活の変化等を時代区分を交えて分かり易く説明して下さいました。内容については以下の概略をご確認下さい。



基調講演の様子  
財団法人トトロのふるさと財団 理事 勅使河原 彰 先生です。

ウォーキングには、2グループで26名、基調講演や総合学習の発表には約60名が参加しました！

### 内容の概略

台地の中央にある砂川のような小川では、一年中安流した水を確保できません。このような場所には、移動生活をする旧石器時代の遺跡が残っており、縄文時代の人たちが狩猟活動のために立ち寄り場所として使っていたことがわかります。すなわち、堅い住居をつくって定住するような場所ではなかったと云うことです。

このように砂川流域には、狩猟採取を行っていた縄文時代までは大きな村がつくられましたが、弥生時代以降になると水田がつくりにくいということで大きな村はつくられなくなりました。一方、狭山丘陵のような古い地形のところには湧き水がたぐいあり、また「谷戸」とよばれる自然の氾濫地があるため水田農耕もしやすい、生活の場となる台地の上の水はけもよい日当たりもよいと言いうように好条件が揃っていました。

そのようなところは、水稲を始めた弥生時代の遺跡も残り、このような水稲生活が、近代、現代まで通じています。また、中世の武士団がつくった城も狭山丘陵はもとよりその多くは丘陵に位置しています。このようなことから、丘陵が一つの開発の拠点になっていったということがわかってきます。一言に「水辺の環境」といっても、それぞれの水のあり方によって人々の生活の仕方には違いがあるようです。

**8/28(土) 曇り時々小雨**

- 当日はA、Bの2グループに分かれてPoint1~8を見学しました。
- 図面のコース(一)はAグループ、写真はBグループになります。
- 各グループともに、約5.5kmを2時間ほどかけて歩きました。

砂川のシンボルツリーであるコブシの木の下で休憩を取りました。

誓詞橋を目指しその下流を歩く参加者の皆さん。一風入れたので足取りも軽くなりました。

誓詞橋上流部の河群林で説明を聞きます。皆さんはホタルが見られるようですよ。

土器や石器の破片を探す参加者の皆さんです。見つかるかなあ～！？

埋蔵文化センター前にて歴史の話を聞きます。ふむふむ、砂川にはそんな歴史があったのねえ。

参加の注意を受けた後はいよいよ出発です。何に出会えるか期待がふくらみますね！

### ウォーキング

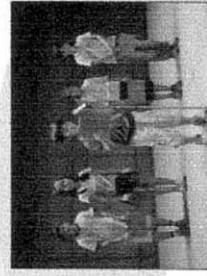
フォーラムのテーマ「砂川旧石器人ストリート」をウォーキングしよう！にもあるように、このウォーキングが今回フォーラムのメインイベントになります。参加者の皆さんには、歩きながら地元研究者の説明を聞いてもらい「川と歴史、文化」について実体験していただきます。

### 総合学習の発表

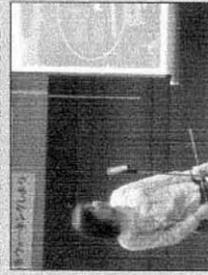
フォーラムの第II部として、新河岸川流域内の小学生・中学生・大学生に「川、水、環境」に関する総合的学習等の一の発表をお願いしました。皆さん様々な取り組みや学習をされているようです。



柳瀬川の自然についての学習結果  
志木市立志木小学校の生徒さん



黒目川での総合学習体験の感想  
朝霞市立朝霞第三小学校の生徒さん



早稲田大学所沢キャンパス B地区  
湿地保全プロジェクト 伊内さん



空堀川や環境に関する取り組み  
東村市立東村山崎三中学校の生徒さん

# 休憩時間には..

お昼休みや休憩時間には、流域の市民団体によるパネル展示や「手で触れる石器展」がにぎわいました。最後に、砂川堀流域川づくり懇談会の永石さんに講評をいただきました。



**手で触れる石器展**  
石器にふれたり、石器で紙を切ったり、珍しい体験ができました。ウオーキングで拾った石器か土器か？それともただの石なのか？刺使河原先生はお昼休み中、子供たちから質問攻めにあいました。

刺使河原先生は子供が拾ってきた石を、一つ一つ丁寧に確認して下さいました。(写真：左)

## パネル等の展示

市民団体のパネルや各種資料、砂川の航空写真等を展示しました。



航空写真(上) 各種資料(左)



**講評**  
砂川堀流域川づくり懇談会の永石さんに講評いただきました。



最後に、(財)トトロのふるさと財団の皆さん、砂川堀流域川づくり懇談会の皆さん、文化財保存全国協議会の皆さん、新河岸川流域川づくり連絡会の皆さん、流域の市民団体の皆さん、当日の運営のお手伝い、どうもありがとうございます。

## フォーラム参加者から回収したアンケートの結果です！

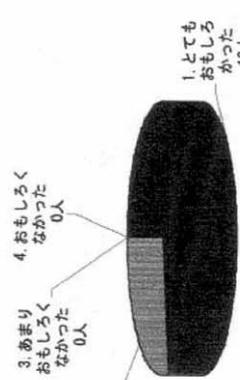
フォーラム開催時、参加者に回答をお願いしたアンケートの結果を一部紹介します。

- Q：ウォーキングの内容はおもしろかったですか？ ※下図参照  
とてもおもしろかった 約72% (13人) まあまあおもしろかった 約18% (5人)  
あまりおもしろくなかった 0% (0人) おもしろくなかった 0% (0人)
- Q：よかったですあるいは悪かったポイント(場所)、興味を持ったことは？

- ・天然河岸が見られたこと。
- ・白旗塚の状況をもっと知りたいたい。
- ・生活用水による水の汚染が確信だが、自然護岸による浄化作用に期待する。
- ・身近な場所に歴史的な遺跡があることに興味を持った。
- ・西高裏、白旗塚がよかった。
- ・砂川をもう普通河川にしてもよいと思う。
- ・砂川に対し、いろいろと興味をもった。
- ・古代の川の使い方が興味深かった。
- ・休憩所がよかった。 など

### ウォーキングの感想は？

- ・土器が拾えたことがよかった。
- ・説明がよかった。 など



# 柳瀬川流域フォーラム2004 をレポート！

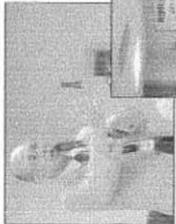
9月18日(土)に、清瀬市生涯学習センター(アミュー6階)において「柳瀬川流域フォーラム2004」が開催されました。「語ろう！つなごう！柳瀬川のみらい」をテーマとする今回のフォーラムでは、東京工業大学の池田駿介教授の基調講演の後に、国や関連自治体等を交えたディスカッションを行いました。ディスカッションに先立っては、パネラーより話題提供がありました。

## 基調講演：「川づくりの未来」

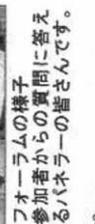
池田駿介氏 (東京工業大学 教授)

## ディスカッション (話題提供)：

- 松下 潤氏 (芝浦工業大学 教授)
- 堂本 泰章氏 (埼玉県生態系保護協会 事務局長)
- 神 茂之氏 (国土交通省 河川下流河川事務所 調査課長)
- 野村 諭氏 (東京都 北多摩北部建設事務所)
- 宮岡俊一氏 (埼玉県 新河岸川総合治水事務所)
- 宮本善和氏 (柳瀬川流域ネットワーク 世話人)



基調講演の様子  
東京工業大学 教授の  
池田駿介 先生です。



フォーラムの様子  
参加者からの質問に答え  
るパネラーの皆さんです。

柳瀬川流域ネットワーク宮本善和さんからは、柳瀬川上流に残る天然河岸の保全や柳瀬川と空堀川の合流点付近の改修に対する提案がありました。

## 川の知識Q&A ~調節池の役割~

今号でレポートした川まつりの会場に「大森調節池」という池があったことには気づかれませんでしたか。？今回はこの「調節池」について簡単に説明します。

調節池とは、大雨の時の浸水や川の氾らんを防ぐため、川の水を一時的に溜め、災害から守る施設で、平常時(雨が降らず水が貯まっていない時など)はポンプやカートリッジなどとして解放されているほか、最近では自然を復元させるビオトープ的な施設として、地域の人手だけでなく、そこに生息する動植物にも配慮した施設となつていきます。

Q：調節池がつくられるようになった理由を聞かせて下さい？

A：治水事業の内、掘削や植樹など河運での対応(対策)には限界があるからです。

雨になると旧に水量が増すのも、この流域の状況の変化が原因と言えるでしょう。

一方、河川改修は、沿岸に人家が密集し河道拡幅が困難なことから多くの歳月を要し、容易に進展しない状況で、また、人口の増加と生活水準の向上があいまって、水の需要が急増し、水源開発の必要性は著しく増大しています。

このような社会情勢から、調節池が必要になってきているのです。

なお、新河岸川流域では、新河岸川総合治水対策の一環として昭和55年度から施工してきました「朝霞調節池(埼玉県朝霞市下内間木地先池)」が、平成16年度より供用を開始しました。この調節池では、現存する自然環境を活かした多目的な活用ができていくことを目指しているそうです。

